

図書だより



令和5年度 6月号
播磨南高校図書室

各地で梅雨入りが伝えられ、私たちの住む町でも雨の日が多くなりました。
皆さんは、外に出られない日は何をしていますか？
普段なかなか自分の時間を持ってない人も、この時期ならじっくり読書をする事ができるかもしれません。
ぜひ、普段できないことにチャレンジしてみてください。



お天気が気になるこの時期にピッタリの本を紹介します

空のふしぎがわかる！

すごすぎる

天気の本 荒木 健太郎 著

雨を降らす雲の一つに積乱雲があります。積乱雲はとてもきれいな形をしていて遠くから眺めるぶんには楽しめますが、真下では激しい雷雨になっています。25mプール一杯分の水分が含まれている雲もあります。

雨といえば、とがたしずくのイメージがありますが、空から降る雨つぶの頭は、実は全然とがたしずくではありません。落ちる時に雨つぶ同士がぶつかってどんどん大きくなり、空気に押されておまんじゅうのような形になる。とがたしずくはなりたくてもなれないのです。

こんなことが載っているよ...

しばらく晴れていて久しぶりに雨が降った日には、独特のにおいがすることがあります。実は、あのおいには「ペトリコール」という名前が付いていて、ギリシャ語で「石のエッセンス」という意味があります。ペトリコールが発生するのは、植物からできた油が乾燥した地面や土や石の表面にくっつき、雨が降ることによって空気中に出ることが原因だと考えられています。

荒木健太郎著(2021)「すごすぎる天気の本」KADOKAWA P38、P100-101、P150 より

教頭先生に、オススメの本と読書体験談を伺いました

紹介図書 『まんがで身につくアドラー明日を変える心理学』

鈴木義也 著 緒方京子 まんが

一冊の本は読むのがしんどいな、簡単に読めて何か刺激のある本ないかな。そういう「お手軽感」を求める人にオススメの本です。

一冊の単行本に8つのショートストーリーが収められ、どの話を読んでも自然と前向きになり、力が湧いてくるような気がします。短編小説集のような作りですので、どの話から読んでも大丈夫です。

アドラー(オーストリアの精神科医)は少しの勇気を持ち、自分の目的や行動を変えることで新しい自分を作ることができるとも言っています。そのためか、アドラー心理学は別名「勇気の心理学」と呼ばれています。

新たな自分と出会いたい人に、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。まんがですので、30分程度で読破可能ですよ！

読書体験談

小学生で読んだ「極北に駆ける」は想像力を掻き立てられる本でした。兵庫県が誇る冒険家、植村直己さんの南極大陸の犬ぞり単独横断の話です。人間の〇〇が犬の餌になるシーンは衝撃そのもので、今でも鮮明に覚えています。

図書室出入口前に本を置き、紹介する予定です。
マンガ本で大変読みやすいです。ぜひ、多くの人に読んでほしいです。

